菊池短歌会　11月詠草

仄かなる朝露被く秋薔薇の間なくし散らむ紅和らかし　岩木　妙子
路地ゆけばサンマの匂ひと木犀の香と混りつつ暮れ急ぐなり　梅野かをり
夕やみに畦刈る人の影溶けて刈り残されし夕菅あはし　北島　多喜
陶展の隅に活けあるほととぎす咲く一輪が醸す安らぎ　黒田　衣子
農業を離れて病めば本来の指か美し夫の掌を拭く　竹野美智代
犬連れて十年ひと日のごと歩む夕べ風景のひとつとなりて　中原ちえ子
前向きに進めとふごと石蕗は曇りの庭にひた明るかり　村上　咲江
山の音乗せ来し峡のいさら川今本流の瀬に紛れゆく　山下　菊代
奥津城の掃除を済ませ仰ぎゐる青一色の空は見飽かず　山代　静子
点滴の針みつめてはまた私亡母さん来てと助け求める　余語やす子

万句の里俳句会　11月句会

嫁に出すごと奉納の菊いとし　打出　貞
老犬に厳しき朝や冬に入る　中路　郁子
末枯れしものに静かに雨の降る　鋤本　トミ
湖一面鏡と山の粧へり　田中ひさ子
庭の石蕗咲きて明るき日々となる　東　鈴子
静けさに熟柿ぽとりと落ちにけり　稲田　羚子
観楓の旅の一夜を山の湯に　梅田　昭子
霧の阿蘇放牛傍にゐる気配　光本とよいち
武士の誇りを咲かす菊人形　小山　照子
一徹に菊を育てゝ賞となる　田中　美智
至福かな小春日和を賜りて　吉井　綾子
冬耕に土黒々と匂ひけり　丸山美代子
雨の晩　明日は霧の深かろう　田尻　浩風
雨の晩　ほんな宅急便だろか　髙倉　新米
中退して　自分さがしの座禅組む　高木　房惠
過去最高　支持率は下がるばっかり　上村　〇子
過去最高　水着替えてのゴールイン　田中レイ子

泗水短歌会　11月詠草

黒潮に洗わる屋久島天上より滝と降る雨身に神々し　吉安　永子
山道を揺られゆられてゆく先に彩とりどりの紅葉がきそふ　増田久美子
スイトピーは造花なれどもピンク色草色壁に映えて好もし　内田つね代
和英辞典に目鏡にルーペ重ねおり電子辞典はいまだ馴染まず　福原美智子
陽だまりの蟷螂二つ動かざり寒に耐え得ず斧振りしまま　高藤タツノ
小春日の庭の陽だまり蝶一羽ゆらりゆらゆら小菊を捉う　中山　定子
すすき穂は透明なる風に光り揺れ世の憂き事を持ちて去るがに　長尾はるみ
川の岸我がもの顔に生いしげるセイタカの花すぎて見苦るし　西　カオル
時雨来て紅萩ほろほろ音もなくこぼれこぼれて土に還らん　平嶋きくえ

肥後狂句桜会　例会入選句集より

新年会　今年の抱負語り合い　小川　繁美
新年会　キレイどころも呼うである　須藤　新生
新年会　弱音吐きよる胃肝臓　狩野　本六
心細さ　増える年寄り減る子供　光堀　善教
心細さ　もう振り切るるガスゲージ　田中　孝幸
心細さ　病気もされん過疎の村　窪田　明徳
雨の晩　そっと裏から来てはいよ　藤野　清子

広報文芸きくち

せせらぎ俳句会　11月例会

南朝は哀し菊人形は美しき　藤本　邦浩
秋じゃがを掘り終へ鍬も洗ひ終へ　内村　泊虹
止まるかに翔ぶ秋蝶の重さかな　五丁　義昭
組内に葬ひ二つ秋の暮れ　坂本まつえ
一ト鉢に紅葉極めしまゆみかな　藤本アツ子
大根引く土は大根の葉で落し　服部　静子
掃き終へし狭庭を濡らし初時雨　村山　数恵
秋雨の降る夜は何か人恋し　寺本　和子
霧の朝白く吐く息混じり合い　（中三）渡辺　大寿
雲一つ無い冬晴れを登校す　（中三）渡辺　一史

肥後狂句水笑会　11月例会

紅葉狩り　赤さじゃ負けん子のほっぺ　御手洗三代
紅葉狩り　車眺めに来たごたる　柏原　乗仏
天高く　熟柿たわわに鳥肥ゆる　続　義昭
天高く　逆戻りするダイエット　神尾　迫水
細々と　まーだ駄菓子屋やってます　吉岡　三水
もういかん　便り付けんちァよかかいた　平井　江彩
もういかん　一杯呑むとがったわす　井手　水光
紅葉狩り　下は見らんで渡らにゃん　宮上　美由
紅葉狩り　通る道みち立ち止まり　中島　五女
天高く　肥えて馬刺でうち食われ　山隈　好茶

七城短歌会　11月詠草

蒸し立ての北海道じゃがほくほくす幕屋のパーティー珍味に遇える　水田紗陽子
うす紅の縁どりありて麗しや庭の山茶花いまが満開　堀　甲子
橙色に大きく望月入りゆくに集いの帰りの足が止どまる　池田カツ子
鈴虫も腕の時計のその音も聞き難くなり我が耳二つ　村上　幾雄
植えゐたる野菜見回る日課なりオクラの最後今朝に採りたり　木下　陽子
夕鍋に間に合わぬかと白菜をかるく押さへつつ結球確かむ　岩崎　照代
意に添わぬ松の枝葉は容赦なく鋏を入るる苛めにあらぬ　佐々　重弘
咲き盛る菊は真紅の小花にて花畑今を女王なるかや　高木　精
秋風がねむの木ゆらゆら揺らすなり妖ふや止まれる胡蝶もともに　松岡ミチエ
田を騒ぎゐし雀ら雨に逃ぐ翼持たざる干し藁濡れる　斉藤　芳子

旭志文芸俳句会　11月詠草

三世代同居も楽しとろろ汁　水谷　ミネ
金木犀舗道を染めし花筵　東　芳子
鶏頭花庭に炎へ立つ老ひの句座　芹川　蓉子
道端に熟柿ほたりと座りけり　中尾ヨシコ
運動会の爆竹幼な日かき立つる　出田みとり
コスモスに見へかくれせし下校の子　芹川のり子
夜の道明りもいらぬ十三夜　郷　ミヤ子